

学校番号	107
------	-----

令和7(2025)年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

令和8年4月1日

学 校 法 人 電 波 学 園
ぎ ふ 国 際 高 等 学 校

令和7(2025)年度教育目標
—『信頼と期待』に応える学校であり続ける—
ぎふ国際高等学校

● 学校の社会的役割(スクールミッション)

地域社会からも信頼される学校づくり 安心して安全な学校 教育の質的向上 「面倒見の良い」学校

● 学校方針(スクールポリシー)

計画的・継続的に学習に取り組み、自他の立場や人権を尊重し、前向きで主体的で協働的な行動が取れる生徒の育成 誰もが安心・安全に学校生活を送れるよう心配りのできる生徒
基礎学力の定着 個別学習サポートによる支援 ICT機器の活用

● 健全経営の継続

(中学校からの新入学生数・転編入学生の確保 転出学生の抑制)

「面倒見の良い学校」の具現化

生徒の個別理解とそれに応じたきめ細かい指導 「褒める」指導／カウンセリング・マインド(受容)に基づく指導 通信制の基本である「自学自習」を支援する体制づくり キャリア教育の推進
内部進学率の向上 進路決定率の向上 地域への貢献 ふるさと教育の実践

令和7(2025)年度自己評価・学校関係者評価

1	評価領域・分野	学校経営全般	
2	今年度目標	① 安心・安全で落ち着いて学習活動ができる環境を維持する。 ② 各教員がカウンセリングマインドを持って、受容・理解・支援の指導に徹しながら、さらなる資質（特に教育相談に関する）向上を図る。 ③ ICT機器・タブレット・電子黒板を活用した授業の研究と実践を行う。 ④ DX関連（3Dプリンター・メタバース等）の機器と授業の研究を検討する。	
3	目標達成に向けての取り組み方法	① 発達障がいや青年期の特性を知るための職員研修や講習会を実施する。 ② タブレットによる学び直し（スタディサプリ）・調べ学習、課題の書き込み、アンケート等の授業の研究と実践を行う。 ③ アンケートの結果の中で「わからない」と回答した保護者や生徒に対しても、更に情報発信を行うよう努め、理解と達成が得られるよう、学校全体で取り組む。 ④ DXハイスクール校に採択された場合、（3Dプリンター・VR・メタバース等）の機器の購入と授業の内容を検討する。	
			評価
4	目標及び取り組み状況に対する自己評価	① 教員研修：「進路選択に向けて、電波学園グループの分野別の強さ、メリットについて」講師 学園法人事務局広報課 今井氏 講演会：保護者会総会后「生きづらさを抱えた若者の理解と支援」講師 岐阜聖徳学園大学短期大学部 幼児教育学科 教授の徳広 圭子氏 ② 校内においてケース会議を含んだ教員研修を年3回実施することができた。 ③ インクルーシブ教育、ユニバーサルデザイン授業の研究と実践を行い、わかりやすい授業になるよう努めた。 ④ プロジェクター、タブレット、電子黒板などのICT機器を活用した授業の実施。 ⑤ アンケートの結果の中で「わからない」と回答した保護者や生徒に対して、ホームページやSRメール、SNSを活用し、常に情報発信に努めた。	A A A A A
5	生徒および保護者によるアンケートに対する自己評価	① あなたは、学校の教育目標や教育方針を理解していますか。 （アンケート）よく理解している 24.4%、ほぼ理解している51.6%、あまり理解していない 18.8%、まったく理解していない1.1%であり、76.0%が「理解している」という回答であった。 ② 個性によるクラス分けが行われていることにより、お子様は居場所を得ることができていると思いますか。 （アンケート） そのように思っている 61.3%、多少はそのように思っている 32.7%あまりそのように思っていない 4.0%であり、94.0%が「居場所を得ることができている」という回答であった。	B A
6	総合的に捉えた成果・課題	① 落ち着いた雰囲気の中で授業を受けることができ、校内も落ち着いている。 ② プロジェクター、タブレット、電子黒板等のICTを活用した授業やスタディサプリ・補習講座により基礎学力の定着ができた。 ③ 校内LANによるライブ配信の講演会・講習会や欠席者に対するオンデマンド配信を後日実施することができた。 ④ 生徒からの相談などに対して教員が適切に対応している。 ⑤ 中学校・高校・適応指導教室等と情報交流と連携強化ができた。	A A A A A
7	次年度に向けた改善策・目標	① 各教員のさらなる資質（特に教育相談に関する）向上。 ② インクルーシブ教育、ユニバーサルデザイン授業の更なる研究と実践を進める。 ③ ICT機器・タブレット・アップルペンシルを活用した授業の研究と実践を行う。 タブレットによる学び直し、調べ学習や課題の作成など生徒が自ら学ぶ力を身に付けさせるよう、研究と実践を行う。 ④ アンケートの結果の中で「わからない」と回答した保護者や生徒に対しても、更に情報発信を行うよう努め、理解と達成が得られるよう、学校全体で取り組む。 ⑤ SRメールによる生徒・保護者への連絡をきずなネットアプリに変更。	

※評価 A…十分達成した B…おおむね達成した C…やや不十分 D…不十分

令和7(2025)年度自己評価・学校関係者評価

1	評価領域・分野	教務(教育課程・学習指導)
2	今年度目標	① 授業以外での学習時間を延ばし、基礎学力の伸長を目指す。 ② 学習が苦手な生徒の学習への不安感の軽減と、自主的な学習態度を身に付けさせる。 ③ 3日・5日コースの生徒への授業を、より興味を持たせる内容にし、卒業後のためにも、2日コースの生徒が3日・5日コースへ変更するように促す。
3	目標達成に向けての取り組み方法	① 2日コースの授業での復習や授業内容の補充のために、スタディサプリの動画配信を利用する。 ② 3日・5日コースの生徒への授業でドローンやタブレットを利用することにより、興味を持たせるとともに、自ら学習に取り組む態度を養う。 ③ 3日・5日コースの授業をアピールすることで、3日・5日コースに通う生徒を増やす。 ④ 学習サポートへの参加者を増やすとともに、自学自習の方法も身につけさせ、自立を促す。
		評価
4	目標及び取り組み状況に対する自己評価	① テスト対策用に問題を一部の科目で配信。動画配信を検討したが、動画内容が大学受験を意識したものが多く、あまり活用ができなかった。リクルートに基礎的な動画の作成をリクエストした。 ② 一部、ドローンやVRゴーグル等新しい技術を取り入れた授業を実施。タブレットを利用して、授業参加を促す取り組みも続けているが、今後も研究が必要。 ③ 授業内容の向上、成長の見える化に対する研究、将来の進路選択のために登校日数を増やす意義のアピールを続けているが、登校日数を増やす生徒の増加にはまだつながっていない。 ④ 学習サポートが、学力が不安な生徒の支えになっていると感じるが、まだ利用につながっていない生徒も多くいる。また、自立させるためのサポートには更なる研究が必要である。
5	生徒および保護者によるアンケートに対する自己評価	① 授業に対する工夫:生徒のアンケート結果は9割ほどが良い結果だった。授業用プリントや視覚に訴える授業を実施することが高評価につながっている。 ② 課題の難易度について:2/3の生徒が適切であった、との評価だった。学習面での苦手意識が強い生徒がいる中では、妥当な結果であると考えている。 ③ 報告課題に対する取り組み:2/3の生徒が継続的・計画的に取り組んでいるが、15%程ができていないとの回答、昨年度とほぼ同じであった。 ④ 自主的な学習:生徒の回答では3割ほどがしっかり取り組めた。ある程度は取り組めたまでを含めると6割ほど、保護者の回答では半数ほどがある程度取り組んでいるとの回答、昨年度とほぼ同じであった。
6	総合的に捉えた成果・課題	① 学習サポートの時間は定着しつつあり、学習に苦手意識を持つ生徒が継続的に利用するようになっている。その結果、レポート作成や単位認定試験の準備において、生徒が安心感を得られるようになっている。 一方で、利用は“その場しのぎ”にとどまりがちで、基礎学力を身につけるための継続的な学習習慣にはまだ結びついていない。 ② 授業に興味を持たせる努力は成果として表れているが、3日・5日コースの授業では、目標や結果に対する評価が曖昧な部分があるため、授業の必要性や成果が分かりづらいと感じる。そのことが3日・5日コースを選ぶ生徒数が伸び悩む原因の一つではないか。 ③ 自学自習に励み、資格の上位級に合格する生徒も増えている。しかし、自主的な学習に取り組めていない生徒も半数近くいる。学習の目的や方法を繰り返し伝え、学習意欲の底上げにつなげていきたい。
7	次年度に向けた改善策・目標	① 学習サポートを「安心できる場」から「学習習慣が身につく場」へ進化させる。 ② すべての学習活動において、「目的」と「成果」を明確にし、生徒に伝える。 ③ 3日・5日の授業や学習サポートの「魅力」を高め、生徒の参加意欲を向上させる。 ④ 生徒が学びの意味と成長を実感しながら、継続して学ぶ姿勢を育成する

※評価 A…十分達成した B…おおむね達成した C…やや不十分 D…不十分

令和7(2025)年度自己評価・学校関係者評価

1 評価領域・分野		生徒指導
2	今年度目標	① 守るべき規律・規範を明確にし、生徒が主体的に遵守していけるよう、職員の共通理解・共通指導を徹底させる。 ② 社会に出て通用する常識・規範意識・コミュニケーション能力等の人間的素養を身に付けさせる。 ③ 人に優しく思いやりのある豊かな人間性を身に付けさせる。 ④ 部活動・ボランティア活動への参加を促す。 ⑤ ヘルメットを着用することで、大事に至ることのないようにするとともに、自転車乗車中の交通事故を防止する。
3	目標達成に向けての取り組み方法	① 登校指導を行う中で、生徒の様子を観察し、声掛けを行う。 ② 頭髪・服装違反生徒に対して期限を定めた上で、改善指導を行う。 ③ 職員連絡会において、生徒の動向から改善すべき内容を周知し、職員の共通理解と指導を求める。 ④ 生徒会活動に加え、MSリーダーズ活動や地域のボランティア活動を積極的に行い、交通安全啓発活動及び挨拶運動や地域の運動会・清掃活動などの地域貢献を行う。 ⑤ いじめアンケートを年3回実施し、予防・防止・把握に努める。
		評価
4	目標及び取り組み状況に対する自己評価	① 登校指導を行う中で、生徒の様子に気を配り、日常の変化に気づくことができた。 ② ほんの一部ではあるが、頭髪や着こなしに問題がある生徒に対して期限を定めて改善指導を行った。 ③ 生徒会活動に加え、MSリーダーズ活動等のボランティア活動を積極的に行い、交通安全啓発活動や地域の運動会・文化祭・清掃活動を行った。 ④ いじめアンケートを年3回と、個人面談の年2回以上の実施により、予防・防止・把握に努めた。 ⑤ ヘルメットを着用せずに登校した生徒は僅かであり、自転車登校時のヘルメット着用は定着している。
5	生徒および保護者によるアンケートに対する自己評価	① 生徒アンケートでは、校則遵守、いじめ・嫌がらせ対応共に8割を超える高評価を得ることができ、大変良い結果であると思われる。 ② 保護者アンケートでは、生徒守則は適切であるかについて「そう思う」「多少はそう思う」という回答が9割を超えており、高評価をいただくことができた。 ③ 保護者アンケートにおける、いじめ・嫌がらせ対応について、「対応している」が56.6%、「わからない」が40.7%のため、本校の取り組みをこれまで以上に積極的に発信していく必要がある。「わからない」の中にはそもそも問題が存在していないとの認識の保護者も含まれるという認識からA評価とした。
6	総合的に捉えた成果・課題	① おおむね校内には落ち着きがあり、目標とする生徒像から逸脱した行動をとりがちな生徒はごく一部いたが、指導を続けていく中で改善されつつあり、安定した生活を送っている。 ② 継続した指導を行い、顕著な改善が見られたため、今後も見守りを続けていく必要があると判断される生徒が数名いる。 ③ 大きな問題に発展することないが、SNSによって人間関係が拗れることがあった。 ④ 問題行動によって、自主退学した生徒がいた。登校する日数は少ないが、日頃から生徒の動向を観察し、変化に気づく必要がある。
7	次年度に向けた改善策・目標	① 全職員が連携のうえ、継続して指導に励むことで守則を生徒が主体的に遵守していけるよう、職員の共通理解・共通指導を徹底させる。 ② 従前にも増して「身だしなみ」指導に力を入れていく。具体的には、上着のボタンがけ、ネクタイ・リボンのゆるみなどの身だしなみを、継続的に指導する。また、長期休暇に染髪しないよう事前に周知徹底する。 ③ MSリーダーズの諸活動（交通安全校外指導・清掃活動、地域のボランティア活動、他）を通して地域に貢献する。 ④ 学校までの自転車通学者は継続してヘルメット着用を義務付けるため、徹底させるよう、教員間や保護者との連携を確実に行う。 ⑤ 「いじめ」は起こりうるという立場で常にアンテナを高くし、職員間の情報共有を行う。

※評価 A・・・十分達成した B・・・おおむね達成した C・・・やや不十分 D・・・不十分

令和7(2025)年度自己評価・学校関係者評価

1	評価領域・分野	教育相談
2	今年度目標	① 生徒情報の共有、記録をもとに、チームでの生徒サポートがスムーズにできるような体制を作る。 ② 生徒、保護者ともに、臨床心理士とのつながりを広げられるようにする。また、不登校傾向にある生徒や保護者を臨床心理士につなげることで、孤立しないようにする。 ③ 発達特性やジェンダー、ヤングケアラーなど教員研修の充実。 ④ 個別の教育支援計画に基づいた適切な対応と進路先へつなげることで、長期にわたるサポートをしていく。 ⑤ 生徒、保護者、職員がお互いに頼ることのハードルを低くするためにも、多くの目で見て日ごろの会話を大切に、変化を見落とさないよう、お互いに声掛けをしていく。
3	目標達成に向けての取り組み方法	① 日常の生徒の様子に目を配り、気になることは記録すると同時に、学年主任や各担当者と相談する。 ② 心理士と情報共有をすると同時に、担任や教育相談担当からも外部機関のサポート案内を渡したり、カウンセリング予約を話す。 ③ 県や様々な機関からの研修案内を職員会議ですると同時に、学内での研修にもつなげていく。 ④ 1年次からの支援計画の確実な記入と情報共有で、在学中も卒業後も、少しでも困りごとが少なく、自信をもって過ごせるよう配慮する。 ⑤ 二者懇談や日常の声掛けによって生徒の状況を把握し、学年を中心にチームでの生徒や保護者サポートを実施する。
		評価
4	目標及び取り組み状況に対する自己評価	① 生徒の様子で気になったことは、生徒情報欄に記入したり、周りの職員に相談したりしながら、情報を共有するように努めた。 ② 困りごとに対して学活や懇談などで心理士に相談することを勧めたり、カウンセリング予約を行ったりして、生徒の悩み事に対応することができた。 ③ 県からの研修案内の周知が不十分であった。職員会や職員研修での情報交換や学内研修は滞りなくできた。 ④ 1年次からの支援計画の記入の周知ができた。また、在学中も卒業後も、困りごとなく、自信をもって過ごせるよう配慮しながら、記入の呼びかけができた。 ⑤ 二者懇談や日常の声掛けなどを通して生徒の状況を把握し、何かあれば学年の職員に報告し、今後の手立てを助言してもらうようにした。
5	生徒および保護者によるアンケートに対する自己評価	① 配慮や支援が必要な生徒に対して、職員が様々な場面で声を掛けたり、相談にのったりしていることがアンケートの高評価に繋がっていると思われる。 ② スクールカウンセラーや養護教諭が、生徒の困りごとに対してきちんと話を聞いてくれることが、「安心できる学校環境」に繋がっている。
6	総合的に捉えた成果・課題	① 生徒の様子に気を配り、気になることについては、生徒情報欄に記入したり、職員間で交流したりすることができた。 ② 困った出来事については心理士に相談して情報共有し、外部機関のサポート案内を渡したり、カウンセリング予約の話をしたりすることができた。 ③ 県や様々な機関からの研修案内の周知が不十分であった。職員研修で情報交換や学内研修は滞りなくできた。 ④ 1年次からの支援計画の確実な記入の周知ができた。また、在学中も卒業後も、少しでも困りごとが少なく、自信をもって過ごせるよう配慮しながら記入ができた。 ⑤ 二者懇談や日常の声掛けによって生徒の状況を把握し、学年を中心に生徒の悩み事や保護者のサポートができた。
7	次年度に向けた改善策・目標	① 生徒情報の共有、記録をもとに、学年、学内での意思疎通を図り、チームでの生徒サポートがスムーズにできるような体制づくり。 ② 生徒、保護者ともに、臨床心理士とのつながりを広げられるようにする。そのためにも、心理士の紹介やせせらぎ教室の利用の仕方を周知するようにする。 ③ 発達特性やジェンダー、ヤングケアラーなど教員研修の充実。 ④ 個別の教育支援計画に基づいた適切な対応と、それを進路先へつなげることで、長期にわたるサポートをしていく。 ⑤ 生徒、保護者、職員がお互いに頼ることのハードルを低くするためにも、多くの目で見て日ごろの会話を大切に、変化を見落とさないよう、お互いに声掛けをしていく。

※評価 A・・・十分達成した B・・・おおむね達成した C・・・やや不十分 D・・・不十分

令和7(2025)年度自己評価・学校関係者評価

1	評価領域・分野	進路指導	
2	今年度目標	① キャリア教育計画において、各年次の評価基準を明らかにして自己評価できるようにする。 ② LHRにおいて情報活用能力の養成を目標としたWEB活動を進める。 ③ 進路学習を通して「探究活動」「キャリア学習」への道筋を明らかにする。 ④ 個々の適性や目的意識に応じて就職指導を粘り強く進め、確実な就職試験合格を支援する。 ⑤ 積極的に検定試験を支援することで、進学・就職へのモチベーションを高める。	
3	目標達成に向けての取り組み方法	① 具体的な評価基準(自己分析)を明らかにして、キャリアパスポートのポートフォリオ活用を高める。 ② ICT(スタディーサプリfor school)を活用して、進路選択に必要な情報活用能力(目的に応じた探究、理解力)を実感できるようにする。 ③ 「LHR」や「進路だより」等を通して、「自己分析」「キャリア学習」へ情報提供を積極的に行う。 ④ 求人情報検索アプリを活用して、進路情報検索、個別指導やグループ指導を積極的に行う。	
			評価
4	目標及び取り組み状況に対する自己評価	① 生徒自身の評価が可能になるようにキャリアパスポートを各年次活用した。担任が助言をすることもできた。 ② 進路研究に際してタブレットを用いて適性診断、進学先分野研究、企業研究などを行うことができた。 ③ 全体的な指導計画を進路だより、進路説明会、始業式、終業式にて示すことはできた。LHRにおける各クラスの統一性を持ちたい。 ④ 全校的な就職指導を実施することができた。生徒の意欲向上が図れた。 ⑤ 意識向上を訴えたが、生徒個人によるところが大きく、学校全体として協力体制を作るところまではできなかった。	B A B A B
5	生徒および保護者によるアンケートに対する自己評価	① 学校は進路設定に向けての情報提供を適切に行っていると思いますか。 「生徒」の回答「そう思う」が69.9%、「多少はそう思う」が25.8%。合計95.7%とほぼ全員十分と感じている。 「保護者」の回答「そう思う」が48.3%、「多少はそう思う」が37.4%。合計85.7%と大部分十分と感じている。 課題として保護者の「そう思う」「多少はそう思う」の合計が生徒より10%低く、保護者への周知が課題である。進路だよりを周知徹底したい。	A A
6	総合的に捉えた成果・課題	① 「成果」進路決定率が本年度196/211名(92.9%)、昨年度201/220(91.4%)と2年連続90%を超えた。 ② 「成果」「コミュニケーション能力」の養成や「探究的な進路選択」への意識向上を支援することができた。グループ学習、学校行事(異文化交流・社会研修)の趣旨をさらに浸透させたい。 ③ 「成果」ICTを活用した、進学情報収集や「オープンキャンパス」参加など具体的な活動場面の提供できた。継続したい。 ④ ICT(handy進路指導室)を活用した企業研究と教員による対面指導との進路支援の連携を充実することができた。 ⑤ 保護者への確実な情報提供によって、保護者からの更なる高い評価を得ることができる方法を検討する。	A A A A B
7	次年度に向けた改善策・目標	① 進路説明会・社会研修・(高等教育機関見学)・LHR(スタディーサプリfor school)・資格取得・異文化国際交流会をキャリアパスポートによって有機的に結び付けるように考えたい。 ② キャリア・パスポートを活用して、「キャリア教育」を進め各種資格検定試験の受験者増加や合格率向上を図りたい。 ③ 専門的な技術・技能習得や今後の就職を見据えた進路指導を強化して、個人に適した進路決定を促す指導を図りたい。	

※評価 A・・・十分達成した B・・・おおむね達成した C・・・やや不十分 D・・・不十分

令和7(2025)年度自己評価・学校関係者評価

1 評価領域・分野		特別活動	
2	今年度目標	① 1年次:入学直後の生徒が親睦を深め、集団行動に不慣れな生徒も「慣れる」ことを目指し、あわせて集団での基本的な規律を学ぶことを目的とする。 ② 2年次:郷土学習を通して、地域や社会とのかかわりを意識し、貢献する意欲を持つ。進路研究をすることにより、将来を見据えて主体的に選択し、行動できるようにする。 ③ 3年次:自己理解を深める中で、自らの道を模索し、前に進んでいく。 ④ 異文化理解の観点から、様々な行事を通じて「他者の理解」に取り組む。 ⑤ 修学旅行:多くの生徒が安心して参加できるよう、行程を計画する。生徒の意見を反映できるよう、早めの計画を心がける。	
3	目標達成に向けての取り組み方法	① 1年次:LHRにおける事前指導や当日の行動を通して、集団行動の大切さを学ばせる。 ② 2年次:自分たちが調べた地域の魅力や課題について、グループでまとめる。スタディサプリのワークブックを活用し、興味のある分野や進学先について研究する。 ③ 3年次:進路決定に向けて自己理解を深めると同時に、支えてくれる人への感謝を育てる取り組みを学年で進める。また、社会を意識し、日常の声掛けを通して基本的な行動が身につくようにしていく。 ④ 異文化国際交流会の実施 異文化国際交流講演会の実施 ⑤ 修学旅行:旅行会社との打ち合わせを早い段階で、密に行うことで、余裕を持ち計画を立てていく。	
			評価
4	目標及び取り組み状況に対する自己評価	① 1年次:概ね当初の目標は達成できたと思える。クラス内にてコミュニケーション能力を向上しようとする意識が生徒各自に高まった。 ② 2年次:新聞づくりを通して仲間と協力しながら情報を整理し、郷土についての知識を広げることができた。スタディサプリでの進路研究では、将来の選択を主体的に考える意識が高まった。 ③ 3年次:卒業後を見据え、LHRで「お金」「マナー」「保険」「人権」などについて仲間と意見交流する中で学ぶことができた。社会に出る準備段階として、様々なことにチャレンジすることができた。 ④ 2年次生:愛知工科大学外国語学校の留学生との交流会、及び1年次生:JICA(国際協力機構)の海外青年協力隊員による講演を拝聴した。いずれも異文化理解の観点から有益であった。 ⑤ 修学旅行:生徒が安心して参加できるよう、旅行会社と日程・宿泊先・移動手段を早期に確認し、変更点も共有した。生徒の意見を集めて見学地を比較し、満足度の高い行程づくりに努めた。	A A A A A
5	生徒および保護者によるアンケートに対する自己評価	学校は生徒にとって有意義と思われる特別活動を実施していると思いますか。 そう思う&多少はそう思う 保護者 88.6 % 生徒 95.7% あまり思わない&まったく思わない 保護者 2.0% 生徒 2.3%	
6	総合的に捉えた成果・課題	① 1年次に関してはスタディサプリの導入に伴い、LHRの時間が不足気味になった。次年度は十分に検討し実施したい。社会研修ではごく一部の生徒がクラス内でのコミュニケーションに消極的であった。 ② 2年次生は郷土学習で地域理解を深め、進路選択でも将来を見据える姿勢が育った。修学旅行は早期調整が進むなど成果があり、今後は参加しやすい環境づくりによる一層の充実が期待される。 ③ 3年次生は就職や進学での面接練習や、作文練習を重ね、少しずつ社会に出る自信をつけることができた。自分の意見をグループワークで話す機会を増やすことで、積極性を持つようとする姿勢が育った。	A A A
7	次年度に向けた改善策・目標	① LHRの年間計画の十分な検討。 特別活動(校外学習)の内容の検討。準備時間における友人関係づくりの環境を丁寧に作りたい。 ② 2年次生:修学旅行で高まった学年の団結を、次年度の進路決定に向けた支え合いにつなげることが課題となる。また、一人ひとりが主体的に情報を集め、将来を見据えて選択できる環境づくりをさらに強化したい。 ③ 3年次生:それぞれの進学・就職先に進んだのち、困ったことをきちんと周りに伝え、SOSを出し、クリアしていけることを願っている。多くの困難は当然あるので、それぞれの頑張りに期待したい。	

※評価 A・・・十分達成した B・・・おおむね達成した C・・・やや不十分 D・・・不十分

令和7(2025)年度自己評価・学校関係者評価

1	評価領域・分野	保健指導	
2	今年度目標	① 自身の健康に関心を持ち、健康を保持・増進していくためにはどんなことが必要かを考え、行動できるようにする。 ② 保健教育・保健指導について講習会や講話を行い、生徒自身が正しい知識を持って行動できるように繋げる。 ③ 緊急時の対応を明確にし、役割分担をする。教職員間で情報共有し、緊急時に備える。 ④ ⑤	
3	目標達成に向けての取り組み方法	① 学校保健計画・学校安全計画をそれぞれ策定し、保健指導をすすめる。保健だよりや掲示物などの作成においては、生徒の行動から気になる点や改善点を考えるなどして内容を絞り、生徒に伝わりやすいものを作成する。 ② 外部機関からの講師や学校薬剤師と連携をとりながら講習会や講話を実施する。実施する内容もその都度相談して、生徒の実情に応じた内容を取り入れて行う。 ③ 教職員対象の救命講習を実施、緊急時対応マニュアルの見直し、健康管理表などから得た情報や対応方法をまとめる。特に注意が必要な生徒に関しては一覧にして誰もがすぐ情報を確認できるようにする。	
			評価
4	目標及び取り組み状況に対する自己評価	① 自身の健康について気になっていることや改善したい事を自ら保健室に聞きに来てくれた生徒が数名いた。一緒に調べたり、参考資料を渡してアドバイス。少しずつではあるが、意識できる生徒の様子がみれた。 ② 外部機関からの講師や学校薬剤師と連携をとりながら講習会や講話を実施することができた。 ③ 緊急時対応マニュアルを見直したり、特に注意が必要な生徒に関しては経過を確認し、教職員間で共有することによって対応に備えることができた。また、学校医にも相談するなどして適切な対応に努めることができた。	B B B
5	生徒および保護者によるアンケートに対する自己評価	① 安全面・衛生面への配慮をしていると思う、多少そう思うとの回答がほとんどを占めた。	B
6	総合的に捉えた成果・課題	① 医薬品講話や献血セミナーなどの実施後には、様々な質問が生徒から挙がっている。講話やセミナーを実施することで、生徒が知りたいと思った事を聞ける良い機会である。これからも継続していきたい。 ② 緊急時の対応を明確にし、教職員間で連携ができたため救急搬送が必要なケースにおいてもスムーズに搬送に繋げることができた。 ③ 健康管理上、とくに情報共有した方が良い生徒に関しては年度当初に限らず、定期的に情報を共有・対応の確認をしていくことが必要だと感じた。	B B C
7	次年度に向けた改善策・目標	① 保健だよりや、保健的行事の内容の見直しや充実をはかる。 ② 緊急時に備えたマニュアル見直しとシミュレーション研修の実施。 ③ 安全面や衛生面について日常点検を増やし、校舎内外の衛生管理を行う。	

※評価 A・・・十分達成した B・・・おおむね達成した C・・・やや不十分 D・・・不十分

令和7(2025)年度自己評価・学校関係者評価

1	評価領域・分野	学校図書	
2	今年度目標	① 図書室の新規利用者の増加を目指す。 ② 図書部員の増員と継続的な部活動参加を目指す。 ③ 誰もが落ち着いて過ごすことができる環境整備をする。 ④ 多様な分野の書籍や利用者増加に繋がるような図書選定をする。 ⑤ 行方不明のため除却になる図書を0にする。	
3	目標達成に向けての取り組み方法	① 新規購入図書や図書だよりの宣伝と、気軽に図書室に来室できる雰囲気づくりをする。 ② 毎月のコーナー別置を継続しつつ、図書だよりに図書部のコーナーを設けたり、図書購入回数を増やすなどして、継続的な部活動参加を目指したい。 ③ 図書以外にも、外部機関の資料を置くなど工夫したい。 ④ リクエストBOXの設置を継続し、新規図書の購入時に参考にする。 ⑤ 定期的に未返却図書の返却を促し、整理する。	
			評価
4	目標及び取り組み状況に対する自己評価	① 定期的に図書室を利用する生徒が増えた。来年度継続していきたい。 ② 1年を通して積極的に活動してくれる生徒が2名増えた。 ③ 授業の前後に図書室で勉強したり、読書をしたりする生徒がいた。来年度も継続して、環境整備に努めたい。 ④ 図書室にリクエストBOXを設置し、生徒にリクエストを募った。また、現代社会において必要な知識を得られるような図書を意識して選書した。 ⑤ 今年度は、行方不明のため除却になった図書は0だった。来年度も継続できるよう、図書の管理を工夫して行っていきたい。	B A B B A
5	生徒および保護者によるアンケートに対する自己評価	① ② ③ ④ ⑤	
6	総合的に捉えた成果・課題	① 授業の前後に学習や読書のために定期的に図書室を利用する生徒がいた。中には3年生になってから利用が増えた生徒もいたため、利用者の幅が少し広がった。 ② 毎月のコーナー別置を継続したり、学校祭で図書を使った展示を行うなどしたことが継続的な活動参加に繋がった。 ③ 図書部員が作成した飾りなどを活用し、温かい雰囲気づくりをすることができた。 ④ リクエストBOXを活用している生徒は固定されてきているため、全校に周知して様々な分野の図書を揃えたい。 ⑤ 部活に参加する生徒が増えたことも、行方不明図書の除却0に繋がったと思う。来年度は、より図書を管理しやすくするための工夫をしていきたい。	B A B C B
7	次年度に向けた改善策・目標	① 来年度も図書だよりを活用して、図書部の活動や新規図書などの情報・選書リクエストの有無などを発信していきたい。また、環境整備にも努めたい。 ② 来年度も毎月のコーナー別置・学校祭展示の継続をしつつ、新聞を活用した取り組みを新たに行うことで継続的な参加者の増加を目指したい。 ③ 図書をより正確に管理するために、管理番号を貼るなど工夫をしていきたい。 ④ ⑤	

※評価 A…十分達成した B…おおむね達成した C…やや不十分 D…不十分

令和7(2025)年度自己評価・学校関係者評価

1	評価領域・分野	渉外(生徒募集)
2	今年度目標	① 本校が求める生徒像・本校が目指している学校像を、中学校(3年生担当教師・管理職)・中学校3年生とその保護者・関係諸機関(各市町の通級担当者等)に、より広くより正しく理解してもらう。 ② 中学校との信頼関係をより深めるために、春と秋の中学校訪問や要請のあった説明会への参加を積極的に進め、日常の相談活動(個別面談を含む)を充実させる。 ③ 年に10回(うち1回は中2生対象)の学校見学会や個別の見学は、教育相談的な対応を基本として実施する。 ④ 春は、本校の理解を深めてもらい、各中学校の卒業生の本校での様子・進路先を伝える。秋は、本校を希望する生徒についての情報交換を行う。このような中学校訪問を行う。 ⑤ 中学校・各市町の通級指導教室(名称は色々ある)・各市町教育委員会から参加要請のあった進路説明会(高校説明会等)には、積極的に参加する。
3	目標達成に向けての取り組み方法	① 不登校や不登校傾向にあった中学生が、本校への進学を機に新たな気持ちで自己実現を目指して明るく過ごしている姿や進路状況を伝え、本校が果たしている役割の具体を理解してもらい、本校の特色も理解してもらう。 ② 本校に在籍している生徒の様子や進路状況を中学校や通級の担当者に伝え、具体的な姿を通して本校が大切にしていることを理解してもらうとともに、事実で信頼関係を深められるようにする。 ③ 職員共通のマニュアルを作成し、学校見学会は受容的・共感的に行う。 ④ 学校見学会・個別見学会に参加した中学生の様子を伝え、中学校での進路指導の一助となるようにする。 ⑤ より多くの中学生とその保護者に本校について知ってもらい、興味を持ってもらい、見学会への参加意欲を高め、進学先として検討してもらえるようにしていく。
		評価
4	目標及び取り組み状況に対する自己評価	① 学校案内パンフレットは、本校の特色をより深く・広く理解してもらえるように、在校生のナマの声を掲載する工夫を重ね、中学生・保護者・中学校教員・関係諸機関に示すことができた。 ② 春の中学校訪問では、入学後の生徒の様子や卒業後の進路を伝えることで、本校が不登校を経験したり問題を抱えたりしている生徒に寄り添う指導を続けていることを理解してもらうことができた。 ③ 高校進学を控えて、色々な困りごとを抱えている中学生とその保護者に対して受容的・共感的な面談を行い、本校への進学に向けての意欲付けや興味付けとなるように努められた。 ④ 学校見学会・個別見学会に参加した生徒の様子を中学校に伝えと同時に、本校への進学意欲などについても情報交換を行い、中学校での進路指導に役立てられるようにできた。 ⑤ 昨年度に引き続き、各市町の通級教室などを訪問して学校案内パンフレットを届けると共に、その教室を利用した生徒の入学後の様子も伝え、信頼関係を築ききかけとできた。
5	生徒および保護者によるアンケートに対する自己評価	
6	総合的に捉えた成果・課題	① 不登校を経験したり不登校状態にある中学生とその保護者、さらにその進路指導に当たっている中学校教員に本校のことをより知ってもらうことはできたが、入学生徒は前年度比減となった。 ② 中学校では、不登校を経験したり不登校状態にある生徒に対して紹介される進路先として、真っ先に紹介される高校となっていたり、中学生とその保護者にもそのようにとらえられたりするようになっている。 ③ 7・8月の見学会に参加する中学生が多く、進学先の候補としての本校に対する関心が高い。また、面談での質問が進学に向けて具体的な内容になっている。 ④ 中学校教員からは、本校進学に向けて中学生に指導すべきことなどを具体的に尋ねるものが増え、各市町の通級教室指導者からの質問もあり、連携が進んだ。 ⑤ 岐阜市近郊だけでなく、西濃地区(大垣市)・可茂地区(可児市)・美濃地区(関市・郡上市)からも説明会参加要請があり、本校を知らせるきっかけのひとつとなっている。
7	次年度に向けた改善策・目標	① 本校生徒の活躍が伝えられるパンフレットから、心配事を抱えている生徒がどのように解決していこうとしているのかも伝えられる内容を加え、本校への進学意欲につなげられるようにしていく。 ② 年に2回の中学校訪問では、中学校との信頼関係をより深く強いものとし、中学生・その保護者・中学校教員の期待に応えられる相談活動を進める。 ③ 学校見学会の時期を工夫し、本校に興味・関心を持つ中学生・その保護者をタイムリーに受け入れられるようにし、中学生の理解をより深められるようにする。 ④ 学校見学会・個別見学会に参加した中学生についての情報交換や本校への進学に向けてのアドバイスをしたり、本校への進学後の様子を伝えることで本校への信頼を高められるようにする。 ⑤ 参加要請には積極的に応え、また、要請してもらえるような関係作りに努める。

※評価 A・・・十分達成した B・・・おおむね達成した C・・・やや不十分 D・・・不十分

令和7(2025)年度自己評価・学校関係者評価

1	評価領域・分野	事務	
2	今年度目標	① 経費節減と予実管理。 ② 生徒・保護者・教職員への対応の改善。 ③ 教育環境の整備。 ④ 適正で迅速な事務処理。	
3	目標達成に向けての取り組み方法	① 予算の開示、職員会などでの周知など、意識付けを継続して行う。 ② 明るく元氣な”笑声”で、また、双方の言うことを正しく受け取り、正しく伝え、正しく対応する。 ③ 教務と連携し、書類整備など事務から支援できるところを担う。 ④ 職員間で情報、認識を共有し、事務処理の精度を上げる。	
			評価
4	目標及び取り組み状況に対する自己評価	① 経常的な経費についての経費削減に努めた。修繕費等の突発的な経費については、収支と比べながら進めることができた。 ② 明るく元氣な対応を心掛けた。双方の思い込みも少なからずあるため、納得できるよう努めたい。 ③ 校舎内の電気をLEDへ交換。教室のロールカーテンを交換することで教室・実習室等が明るくなり、教育環境の整備を行った。また、岐阜市の補助金を活用しiPad 82台を購入し、ICT人材育成に努めた。 ④ 職員間の情報共有を高めるため、Teamsを活用し資料を共有することで理解度を深めることができた。	A A A A
5	生徒および保護者によるアンケートに対する自己評価	① 生徒対応・情報提供において、保護者80.0%の方が適切に対応できているとの評価をいただき、大変ありがたい。更に信頼関係が持てるよう目指す。 ② 施設設備の充実において生徒アンケートにおいて65.4%の方がそう思うとの回答をいただき引き続き補助金等活用しながら整備を目指す。 ③ ④	A B
6	総合的に捉えた成果・課題	① HPをリニューアルすることで自分たちで更新することができるようになり、事務処理の効率化を図ることができた。 ② 親切的な対応を常に心掛けること。 ③ 更に正確で分かりやすい案内、連絡の仕方を考えること。 ④ 生徒・保護者への周知度を高めるため、SRメールに代わるアプリ導入の検討が必要である。	A A A B
7	次年度に向けた改善策・目標	① 常に「業務の効率化」の意識を持ち、改善に努める。 ② 経費節減 ③ 教員との連携の良好な維持を続ける。 ④ 収支のバランスを考え、学校運営にあたる。	

※評価 A・・・十分達成した B・・・おおむね達成した C・・・やや不十分 D・・・不十分

2025年度（令和7年度）学校関係者評価委員

令和8年4月1日

委員名簿

役職

ご芳名

朝日大学

村橋 剛史 様

参与

石井 浩二 様

木之本自治会連合会会長

馬淵 進 様

坂井町町内会長

古山 繁廣 様

ぎふ国際高等学校保護者会会長

清水 征樹 様

ぎふ国際高等学校保護者会副会長

杉原美由紀 様

ぎふ国際高等学校保護者会副会長

栗田 静香 様

ぎふ国際高等学校保護者会副会長

稲津 千春 様

校長

後藤 辰也

教頭

仲野 哲

副教頭

小関 元和

本校 教務責任者

小澤 美咲

本校 生徒指導責任者

尾関 将司

本校 教育相談責任者

青木 保幸

本校 進路指導責任者

徳田 一

本校 養護教諭（保健指導担当）

山本 安菜

本校 事務責任者

八木 隆

本校 学校関係者評価委員会担当

本田 知彦

令和7年度 ぎふ国際高等学校学校関係者評価表

学校名:ぎふ国際高等学校

評価項目	評価	評価者からの意見等
1. 本年度の重点目標の達成状況について	4 十分達成している	評価の平均 3.6
	3 どちらかといえば達成している	・生徒が自ら学習に取り組み、自立した人間を育てるという目標が明確であり、それに対して地道に取り組み、成果を上げている
	2 どちらかといえば達成していない	
	1 達成していない	
2. 学校の自己評価表の具体的目標及び具体的方策の達成状況について	4 十分達成している	評価の平均 3.6
	3 どちらかといえば達成している	・個々の目標については一部達成できていないものもあるが、よりよい教育を目指して1つ1つ改善努力を行っており、最終的に90%以上という高い進路決定率につながっている。
	2 どちらかといえば達成していない	
	1 達成していない	
3. 次年度への主な課題の把握について	4 十分達成している	評価の平均 3.6
	3 どちらかといえば達成している	・日々生徒への働きかけを行うことによって課題を発見し、よりよい教育を实践(それを振り返り)改善するというPDCAサイクルが確立されている。教員間のコミュニケーションが適切にされている。
	2 どちらかといえば達成していない	
	1 達成していない	
4. 改善方策の策定状況について	4 十分達成している	評価の平均 3.6
	3 どちらかといえば達成している	・改善すべき事項について教員間で共通認識を持ち、具体的な方策をたてて取り組んでおり、現実には適合した方策が行われている。
	2 どちらかといえば達成していない	
	1 達成していない	
5. 「目指す学校像(生徒の基礎学力向上・基本的生活習慣の確立に向けての継続的な指導を行い、生徒[保護者]が安心して通う[通わせる]ことが出来る学校)」について	4 十分達成している	評価の平均 3.7
	3 どちらかといえば達成している	・生徒の真の成長を目指す目標に対して、生徒に合わせた努力をしており、通信制高校として生徒の成長を促す十分な取り組みが行われている。
	2 どちらかといえば達成していない	
	1 達成していない	

令和7年度 学校関係者評価報告書

学校名:ぎふ国際高等学校

1 学校目標

・「自律・進取・創造」の校訓のもと、豊かな社会性を身に付け、地域社会人として信頼される確かな基本的生活習慣・規範意識や考え方・生き方を育成する。
・夢や目標をもち、社会に貢献できる自己の実現に向け、基礎的・基本的な学力の定着を図りつつ、主体的・継続的に学び続ける意欲や態度を育成する。
・他人の立場や思いを理解し、互いの人格を尊重し、思いやりのある言動をとることができる豊かな人間性を育成する。

学校目標に対する評価・意見

・素晴らしい学校目標であり、その実現に向けた丁寧な指導と、職員の親身な対応が見られた。
・生徒の実態に即し、社会性や自立を重視した目標設定になっており、今後も継続的な取組が望まれる。
・教員としての立場や役割を踏まえ、生徒への声掛けや言葉かけの方法に工夫が見られ、一人ひとりに寄り添った丁寧な対応が行われていることが確認できた。
・適切な目標設定ができています。

2 学校自己評価報告書について

学校自己評価報告書基準	学校自己評価報告書についての評価点の平均		
	自己評価の結果が適切か	改善に向けた取組みが適切か	今後の改善方策が適切か
基準1(教育理念・目的・育成人材像等)	4.0	4.0	4.0
基準2(学校運営)	4.0	4.0	4.0
基準3(教育活動)	4.0	4.0	4.0
基準4(教育成果)	4.0	4.0	4.0
基準5(生徒支援)	4.0	4.0	4.0
基準6(教育環境)	4.0	4.0	4.0
基準7(生徒募集と受け入れ)	4.0	4.0	3.8
基準8(財務)			
基準9(法令等の遵守)			
基準10(社会貢献)	3.8	4.0	4.0

※学校関係者評価委員7名による評価の平均。

4:適切な評価である 3:ほぼ適切な評価である 2:やや不適切な評価である 1:不適切な評価である

3 今後の改善意見

・生徒の学校生活の様子について、より詳細かつ継続的な情報発信を行うことが望まれる。
・一人ひとりに寄り添う教育実践は評価でき、今後は広報を強化し生徒募集の充実が求められる。
・少なくとも当該生徒が通学していた垂井町の中学校においては、生徒募集は実施されていなかったと、評議員の方より報告。更なる募集活動が期待される。
・生徒一人ひとりに応じた丁寧な対応が行われていること、また学校全体としても生徒が安心して過ごせる環境づくりに工夫が見られる点は評価できる。一方で、教育目標や教育方針について十分に理解していない保護者が一部に見受けられることは課題として残る。

4 今後の具体的な改善方策

・保護者からの意見を尊重し、適切に反映していくことが求められる。
・在校生や保護者の声を活用し、希望につながる進路としての魅力発信を工夫することが望まれる。
・在校生の様子やこの学校を卒業した後の様子をさらに発信していくことが望まれる。
・他の通信制高等学校との差別化を図り、生徒募集につなげてほしい。